

一般外科・小児外科・肛門外科

1. 概要

(1)一般外科・小児外科

2018年の手術総数は1,724件で、2017年の1,725件と変わりなかった。そのうち15歳以下の小児手術は144件、全緊急手術は371件（371/1,724、22%）で小児は2017年（179件）に比べ減少したが、緊急手術は、数も割合も若干増加した（2017年、338件、20%）。うち腹腔鏡手術は112件（112/371、30%）でこの傾向は2017年と変わりなかった。

一般外科・小児外科ユニットにおいて、対象疾患は、虫垂炎やヘルニアといった日常的な疾患から甲状腺（26件）・消化器・乳腺（163件）まで幅広い。腹腔鏡手術は、胃癌手術38件（38/110、35%、昨年28%）、大腸癌手術102件（102/270、38%、昨年33%）、肝臓手術（部分切除のみ）11件（11/21、52%；昨年23件、58%）に対し行われた。例年通り虫垂や成人鼠径ヘルニアに対しても積極的に腹腔鏡を使用し、2018年には虫垂炎手術78件（78/121、64%、昨年40%）、鼠径ヘルニア手術20件（20/180、11%、昨年16%）であった。緊急例も含めた腹腔鏡手術全体では552件で昨年の532件から増加している。特殊な治療として、肝嚢胞に対する腹腔鏡天蓋切除が6例に行われた。ロボット支援下腹腔鏡手術は、直腸癌で17件、胃癌で16件行った。今年から新たに肥満外科を導入し、肥満症に対して腹腔鏡スリーブ状胃切除術を3件に行った。今後増加していくと思われる。また、今年には副腎腫瘍に対しての内分泌外科手術で、腹腔鏡手術を3件に行った。

乳癌治療において、センチネルリンパ節生検陰性は105件で、例年同様の傾向であった。乳腺専門医と形成外科医による乳房全摘同時再建手術（Tissue expander挿入）は2件（昨年4件）に行われた。

肝切除は38件で、疾患別内訳は、原発性肝癌 20件、転移性肝癌 12件、胆道癌 3件、肝血管腫 2件、肝内結石症1件。膵頭十二指腸切除は26件で、この疾患別内訳は、膵癌 13件、胆嚢・胆管癌 6件、乳頭部癌 2件、十二指腸癌2件、胃癌1件、十二指腸神経内分泌腫瘍1件、慢性膵炎1件。食道悪性腫瘍は10件（1件はGIST（郭清なし））に根治手術が行われ、食道癌は9件で、このうち3領域郭清が3件、2領域郭清が6件であった。

上部消化管潰瘍穿孔は22件経験し、緊急手術は18件、保存治療は4件行われた。腸閉塞入院は173件のうち40件（23%）に手術が施行された。

小児外科手術は名古屋大学小児外科と連携して治療に当たっており、総数は163件で、新生児手術は2件であった。一般外科全体の入院総数は2,276人と昨年の2,310人よりわずかに減少した。平均入院期間は10.4日とこちらは昨年の10.6日より減少し、昨年に引き続き連続して減少し続けている。総合すると2018年は、肥満手術、内分泌外科手術などの新たな腹腔鏡手術への挑戦がみられたが全体としてみた場合、昨年と比べて大きな変化はなかったと判断している。

（第一部長 平松 和洋）

(2)肛門外科

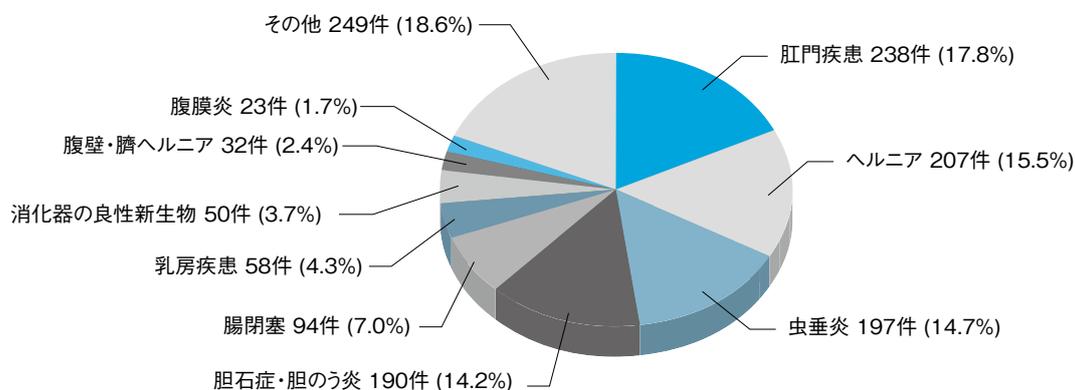
“肛門外科”は当院移転新設に伴い「こうもん科」として単科標榜された。現在は厚生労働省の標榜変更にて『肛門外科』診療だが、診療・治療は一般外科と共同で運営している。外科外来診療における統計では、悪性疾患治療を除くと痔核を筆頭とした肛門疾患、症状にて受診される患者が多い。多くの施設がそうであるように外科が担当している場合もあるが、肛門というデリケートな部分で専門性を必要とするため、やはり専門家での診療・治療を希望される方も多い。当院肛門外科は、近隣の診療施設から併存症を有する患者の紹介も多い。肛門外科標榜での診療日は木曜日の一日だけであるが、常勤で外科診療に携わっている利点から、日々時間が許す限り診察や治療に当たっている。外来診察の際は、患者が安心して受診できるような対応・環境整備を心掛け、診察で患者に不自由・不快な思いを持たれないように努力している。多くは良性疾患であり、外来処置や生活指導・薬物療法など保存治療に重きを置き、患者の症状によって手術適応を決めている。近年大腸がんも増加傾向にあり、肛門症状で受診された患者様には大腸検査を受けていただくようにしている。専門外来として“ストーマ外来”を認定看護師とともにやっている。

（部長 柴田 佳久）

2. 新規登録疾患

(1) 悪性新生物以外

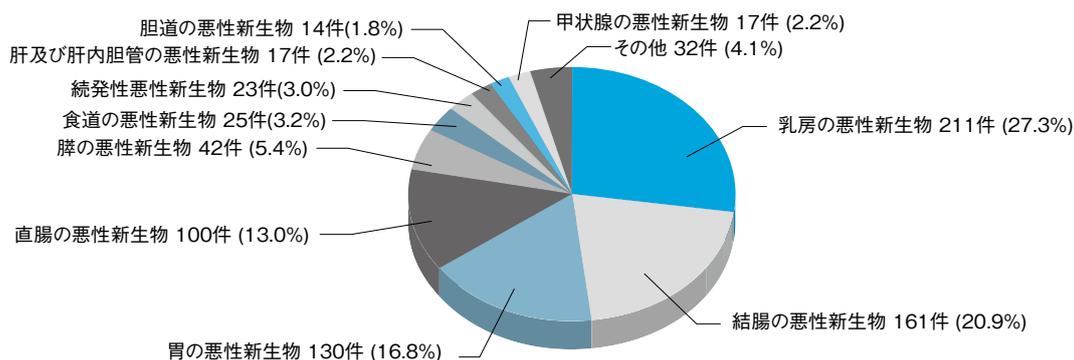
総数：1,338件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
肛門疾患	痔核, 詳細不明	131	K649
	裂肛, 詳細不明	26	K602
ヘルニア	一側性又は患側不明のそけいヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	189	K409
虫垂炎	急性虫垂炎, その他及び詳細不明	117	K358
	詳細不明の虫垂炎	62	K37
胆石症・胆のう炎	胆のう炎を伴わない胆のう結石	107	K802
	急性胆のう炎	46	K810
腸閉塞	閉塞を伴う腸癒着[索条物]、イレウス, 詳細不明	30	K565、K567
乳房疾患	乳房の良性新生物	58	D24
消化器の良性新生物	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物, その他の消化器	11	D377
腹壁・臍ヘルニア	臍ヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	14	K429
	癒痕ヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	11	K432
腹膜炎	急性腹膜炎	22	K650

(2) 悪性新生物

総数：772件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房, 部位不明	97	C509
	乳房の悪性新生物, 乳房上外側 4分の1	47	C504
結腸の悪性新生物	結腸の悪性新生物, S状結腸	61	C187
	結腸の悪性新生物, 上行結腸	51	C182
胃の悪性新生物	胃の悪性新生物, 胃, 部位不明	96	C169
	胃の悪性新生物, 幽門	13	C164
直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	100	C20
膵の悪性新生物	膵の悪性新生物, 膵, 部位不明	20	C259
	膵の悪性新生物, 膵頭部	10	C250
食道の悪性新生物	食道の悪性新生物, 食道, 部位不明	9	C159
	食道の悪性新生物, 胸部食道	7	C151
続発性悪性新生物	肝及び肝内胆管の続発性悪性新生物	11	C787
肝及び肝内胆管の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物, 肝細胞癌	13	C220
胆道の悪性新生物	その他及び部位不明の胆道の悪性新生物, 肝外胆管	12	C240
甲状腺の悪性新生物	甲状腺の悪性新生物	17	C73

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 38,116人 年間外来新患者数 2,419人
 年間入院患者数 24,212人 年間入院新患者数 2,131人

(2) 2018年1月～2018年12月入院概要（全2,276人、平均入院期間10.4日、未退院4名除く）

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 日数(日)
イレウス	手術	40	17.3
	保存療法	133	8.9
外傷	手術	11(1)	23.5
	IVR	1	15
	保存療法	11	7.8
血管系緊急(塞栓・解離など)	手術	0	-
	IVR	2	8
	保存	6	6.5
合併症治療	保存治療	28(1)	13.9
	緊急手術	4	30.8
	予定手術	1	13
	緩和治療	1	24
抗がん剤有害事象	保存療法	48	7.9
	緩和治療	1	39
その他	保存治療	39	8.7
	予定手術	22	3.18
	緊急手術	3	10
	保存治療	2	20.0
その他/悪性	化学療法	1	43
	放射線治療	1	51
	予定手術	14	11.6
	手術	17	4.4
甲状腺/悪性	手術	11	6.7
内分泌	予定手術	3	4.7
非新生児	手術	121	3.1
	保存療法	13	2.2
腹腔内癌再発	手術	6	18.3
	保存・緩和療法	9	10.6
腹膜炎	手術	28(1)	22.9
	保存療法	16	9.7
ヘルニア	手術	178	3.1
	保存療法	7	3.9
痔核・痔瘻	手術	16	4.2
	保存療法	3	11.3
虫垂	手術	120	5.4
	保存療法	25	7.5
胃十二指腸/良性	緊急手術	18	23.6
	保存治療	5	7.8
肥満症	予定手術	3	12

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 日数(日)	
胃十二指腸/悪性	手術	129	14.0	
	化学療法	7	5.6	
	IVR	2	26.0	
	緩和療法	5	23.2	
	保存療法	36	12.3	
肝胆膵脾	手術	280	8.9	
	保存療法	44	12.4	
	緩和療法	3	16.7	
	化学療法	0	0.0	
放射線療法・IVR	放射線療法・IVR	3	25.3	
	小・大腸/悪性	手術	287(1)	14.6
		化学療法	3	2.3
		保存療法	119	13.5
緩和療法		9	13.2	
放射線療法・IVR	放射線療法・IVR	2	32.0	
	小・大腸/良性	手術	40	18.0
		保存療法	10	9.7
食道/悪性	手術	12	29.8	
	保存療法	19	21.9	
	化学/放治	14	27.3	
	緩和療法	0	0.0	
乳腺/その他	手術	12	3.9	
	保存療法	0	0	
乳腺/悪性	手術	150	6.8	
	保存療法	44	14.3	
	緩和療法	5	17.8	
	化学/放治	5	28	

() : 未退院の数

(3) 一般外科・小児外科手術数 (2018年) 1,724例

総数	1,724	(オ)小腸・大腸	367
全身麻酔	1,387	a良性疾患	97
脊髄麻酔	79	(a)小腸切除	24(1)
局部麻酔	258	(b)腸瘻造設	3
		(c)腸瘻閉鎖	16
①一般外科	1,580	(d)腸吻合	1
(ア)甲状腺		(e)結腸直腸切除	25(11)
a良性疾患	15	(f)大腸亜全摘	0
(a)部分切除	0	(g)癒着剥離	26(1)
(b)葉切、亜全摘、全摘	15	(h)経肛門/経仙骨	0
b悪性疾患	11	(i)単開腹/その他	2(2)
(a)部分切除、亜全摘、他	3	b悪性疾患	270
(b)全摘	7	(a)腸瘻造設	28(1)
(c)その他	1	(b)腸吻合	0
(イ)乳腺	163	(c)小腸切除	5
a良性疾患	13	(d)結腸切除	152(65)
(a)摘出	5	(e)直腸切除(高位、低位)	62(17、ロボット15)
(b)腺管区域切除	8	(f)直腸切断	13(1、ロボット2)
b悪性疾患	150	(g)経肛門/仙骨的切除	0
(a)定型乳切	0	(h)骨盤内臓全摘	7
(b)非定型乳切(Bt+Ax)	32	(i)大腸亜全摘	0
(c)Bt±SLNB	66	(j)単開腹/その他	0
(d)乳房温存手術±SLNB	49	(カ)虫垂炎(虫垂/回盲部切除)	123(73)
(ウ)食道	10	(キ)肝/胆/膵/脾	283
a良性疾患	0	(a)肝部分切除	21(11)
b悪性疾患	10	(b)肝区域/葉切除	17(1)
(a)胸部食道切除	10	(c)胆嚢床切除	1
(b)その他	0	(d)肝嚢胞手術	5(5)
(エ)胃・十二指腸	153	(e)開腹胆嚢摘出術	21
a良性疾患	28	(f)腹腔鏡下胆嚢摘出術	171
(a)胃切除、胃全摘	1	(g)開腹胆管切開術	2
(b)体網充填	24	(h)胆管消化管吻合	0
(c)スリーブ状胃切除	3(3)	(i)胆管切除	2
b悪性疾患	125	(j)膵頭十二指腸切除(PD)	0
(a)幽門側胃切除	75(19、ロボット14)	(k)亜全胃温存PD	23
(b)胃全摘	26(3、ロボット2)	(l)膵尾部切除	7(1)
(c)噴門側胃切除	1	(m)膵全摘	2
(d)胃腸吻合	3	(n)膵部分切除	1
(e)楔状切除/十二指腸切除	15(7、LECS3)	(o)膵管空腸吻合	0
(f)PD	1	(p)脾摘	4(2)
(g)試験開腹/その他	4	(q)胃腸吻合	0

(r)単開腹/その他	6
(ク)内分泌	3
(a)副甲状腺	0
(b)副腎	3(3)
(ケ)ヘルニア	197
(a)鼠径大腿	180(19)
(b)腹壁・臍・閉鎖孔など	17(3)
(コ)痔核痔瘻	19
(サ)局麻手術	122
(a)摘出、生検	37
(b)その他	85
(シ)外傷/医原性	15(1)
(ス)腹膜炎	42(2)
(セ)腹腔内癌再発	19(1)
(ソ)その他	38(1)

②小児外科(全例全身麻酔)	144
(ア)新生児手術	2
(イ)鼠径ヘルニア	50(48)
(ウ)虫垂切除	32(21)
(エ)精巣固定	12(3)
(オ)臍形成	14
(カ)幽門筋切開	3(3)
(キ)その他	31(8)

()はその内の鏡視下手術件数、ロボット支援手術

学会発表（医局）

<肛門外科>

No.	演題名	区分	氏名	学会・研究会名	開催地	発表年月日	演者区分
1	脳卒中周術期における早期経腸栄養治療の栄養剤に対する検討	筆頭演者	柴田 佳久	第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会	横浜市	2018/2/22	
2	当院で経験した大腸悪性リンパ腫の臨床的検討	筆頭演者	柴田 佳久	第118回日本外科学会定期学術集会	東京都	2018/4/5	
3	男性乳癌根治術後、胸骨浸潤局所再発に対する切除にて長期無再発生存をみた1症例	筆頭演者	柴田 佳久	第26回日本乳癌学会学術総会	京都市	2018/5/16	
4	当院で稼動しているクリニカルパスの経営からみた評価検討	筆頭演者	柴田 佳久	第68回日本病院学会	金沢市	2018/6/28	
5	当院電子カルテ上のクリニカルパスと看護必要度チェックの検証	筆頭演者	柴田 佳久	第19回日本クリニカルパス学会学術集会	函館市	2018/10/12	
6	術前術後化学療法を施行した十二指腸GISTの1切除例	筆頭演者	柴田 佳久	第26回日本消化器外科学会大会 (JDDW2018)	神戸市	2018/11/3	
7	Pagetoid spreadを有する肛門管癌症例に対して会陰再建に臀部筋膜皮弁を用いた根治切除症例	筆頭演者	柴田 佳久	第73回日本大腸肛門病学会学術集会	東京都	2018/11/10	
8	多科協同にて救命できた会陰部フルニ工壊疽の1症例	筆頭演者	柴田 佳久	第80回日本臨床外科学会総会	東京都	2018/11/23	

座長・司会（医局）

<肛門外科>

No.	座長・司会	演題名	氏名	学会・研究会名	開催地	発表年月日	演者区分
1	座長	一般演題(ポスター)23 NST活動5	柴田 佳久	第33回日本静脈経腸 栄養学会学術集会	横浜市	2018/2/22	
2	座長	研修医セッション 小腸・悪性2	柴田 佳久	第80回日本臨床外科 学会総会	東京都	2018/11/23	

講演（医局）

<肛門外科>

No.	演題名	演者名	学会・研究会名	開催地	発表年月日	演者区分
1	Crohn's disease patients with the anal lesion as an initial symptom undergoing our hospital treatment	Yoshihisa Shibata	Symposium212 IBD and Liver:East Meets West	京都市	2018/9/8	